（様式１）

１　自己評価及び外部評価結果

作成日　　平成26年6月10日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3473300675		
法人名	有限会社　畠中商事		
事業所名	グループホームあおば		
所在地	広島県廿日市市福面２丁目８－６		
自己評価作成日	平成26年5月20日	評価結果市町受理日	

※　事業所の基本情報は，介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先ＵＲＬ	http://www.kaigokensaku.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=3473300675-00&PrefCd=34&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南４－４６－９
訪問調査日	平成26年5月26日

【事業所が特に力を入れている点，アピールしたい点（事業所記入）】

「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を職場のモットーに掲げ、常日頃からスタッフ一同が力を入れて取り組んでいます。日常生活を行う上で、利用者が有する能力に応じて、自立した生活を営んでいただくために、利用者の思いを取り入れ、家庭的な生活を行っていただくように支援する。情報はスタッフ一同が共有する様にしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

閑静な団地の一角にあり、近くに病院やスーパーがあって利便性もある。庭も広く利用者さんと一緒に畑を作り、野菜作りを楽しんでおられる。建物は、元社員寮だったこともあり、急な階段には昇降機が設置してあり安心して、上り下りが出来る。スタッフは、新たな管理者を中心に明るい雰囲気づくりを心掛けておられた。玄関や廊下も広く車椅子対応も可能であるが、出来るだけ利用者さんの残存能力を維持するために見守りながら、手摺りを利用し、ゆっくり歩行している。「ゆっくり、いっしょに、たのしく」を実践されているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ　理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり，管理者と職員は，その理念を共有して実践につなげている。	グループホーム独自の運営方針を事務室、スタッフルームに掲げ、理念の実現・実行して行く様にしている。定期的にスタッフ全員によるﾐｰﾃｨﾝｸﾞを開催し、理念の目的達成のため話し合をしている。	グループホームあおばの運営方針に沿って「利用者が自立した日常生活を営むことができるようにする。」を念頭におき、スタッフ全員が、実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう，事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	自治会に加入し地域の会合・行事・活動へ参加し、交流を深めている。散歩の時など近隣方も笑顔で挨拶をして下さいます。	自治会の回覧板が回り、地域の清掃活動にも参加したり、又、近所からサクランボの差し入れ等、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は，実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を，地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議、地域の会合・会議等の機会に地域の高齢者等の悩みや対応策を聞き、アドバイスしています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では，利用者やサービスの実際，評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い，そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は2箇月毎に開催しており利用者へのサービス、取り組みを報告し意見を聞きながら、今後のサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催し、大野支所の福祉課の職員、民生委員、地域の代表者、施設長、管理者が参加し、活動状況を報告したり、参加者の助言や要望を聞きサービス向上に活かしている。	運営推進会議に地域包括支援センターの参加を望みます。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り，事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら，協力関係を築くように取組んでいる。	廿日市区役所、廿日市大野支所とも連絡を取り合っており、市主催の研修にも参加している。	行政と常に連絡を取り、運営上の課題等、相談し積極的に取り組まれ協力関係を築かれている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており，玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束は行っていない。	身体拘束をしないケアの取り組みに関する方針のマニュアルを作成し、職員に徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は，高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち，利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い，防止に努めている。	グループホーム職員研修、交流会等に参加し虐待防止、身体拘束の防止に向けた意識の向上に日々取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は，日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち，個々の必要性を関係者と話し合い，それらを活用できるよう支援している。	権利擁護事業や後見人制度について学ぶ機会はないが、制度についての理解はしている。現在制度を利用している入居者が一名いる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結，解約又は改定等の際は，利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね，十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結、解約については入居時に理解されるよう説明し、解約時においても納得されている。		
10	6	○運営に関する利用者，家族等意見の反映 利用者や家族等が意見，要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け，それらを運営に反映させている。	「ご意見承り箱」を玄関に設置し、意見・不満・苦情等を伺う様にしている。直接伺った意見、要望に対しては出来る限り速やかに改善を行っている。	利用者の家族が、来訪された時などに直接話を聞くことが多く、意見や要望等、話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族の要望があり、空気清浄機を設置したりした。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は，運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け，反映させている。	定期的に、スタッフ全員によるミーティングを開催し運営に関する意見提案を検討し出来る事は反映されている。	管理者は、日々の職員とのコミニュケーションを大切にし、定例スタッフ会議等で、意見や提案を聞く機会を設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は，管理者や職員個々の努力や実績，勤務状況を把握し，給与水準，労働時間，やりがいなど，各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者や職員の意見を尊重し出来る事については取り入れている。また勤務状況にも気を配り時間外労働手当等、漏れなく支給している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は，管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し，法人内外の研修を受ける機会の確保や，働きながらトレーニングしていくことを進めている。	入居者一人ひとりの趣味・嗜好・性格等の把握をする事を基本として各種研修の受講を受け日常生活の世話、残存機能の維持を図る様に、スタッフを育てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は，管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり，ネットワークづくりや勉強会，相互訪問等の活動を通じて，サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的に開催される「グループホーム交流会」に参加し同業者との意見交流、勉強会等を行いサービスの質の向上が出来る様に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価 実施状況	外部評価 実施状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ　安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，本人が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、本人の希望、家族の希望をよく聞き、入居後における不安、困ったことを聞く機会を作り、ケアプランにも採り入れ対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で，家族等が困っていること，不安なこと，要望等に耳を傾けながら，関係づくりに努めている。	家族が気軽に訪問でき、グループホームのスタッフとの信頼関係が出来るよう、生活の様子や健康状態を常に報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で，本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め，他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居者と家族の要望を聞き、他のサービスを希望される方には、デイケア、定期的なリハビリ受診等の希望に添えるように努力している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は，本人を介護される一方の立場に置かず，暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	食事作りや家事、作業など一緒に行うことでコミュニケーションを図るようにしている。食事のメニュー、料理方法、味付け、植物の育て方、野菜の作り方等を入居者から聞きながら行うこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は，家族を支援される一方の立場に置かず，本人と家族の絆を大切にしながら，共に本人を支えていく関係を築いている。	常に家族と連絡を取り、また面会時には本人を交えて話し合い、支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう，支援に努めている。	馴染みの人との関係維持のため、面会時には一緒に居室で食事等をして頂いたり、外出の支援もしている。	散歩時に出会う近所の方と挨拶をしたり、サクランボ等を頂いたりして地元に馴染みの関係を構築している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し，一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い，支え合えるような支援に努めている。	入居者同士がより良い関係を築けるようコミニケーションのきっかけを作ったり、関係が壊れないように努力している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても，これまでの関係性を大切にしながら，必要に応じて本人・家族の経過をフォローし，相談や支援に努めている。	退去後においても出来る限り支援をするため、面会等を行っている。しかし、徐々に疎遠になっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ　その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望，意向の把握に努めている。困難な場合は，本人本位に検討している。	本人から聞き取れる場合は、直接本人から希望や意向を聴くようにしている。また日常の会話からも本人がどのような希望や意向を持っているのかを推し測るようにしている。聞き取りが困難な場合、態度や仕草から思いを感じ取るよう努力している。	個別のカンファレンス、ミーティング等で気づいた事を書き留め、利用者のニーズの把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方，生活環境，これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時に詳しくモニターリングしている。また入居後もなるべく本人のこれまでの暮らしを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方，心身状態，有する力等の現状の把握に努めている。	日々の状態を詳しくケア記録に記入するようにしている。また、スタッフが日常で気付いたことをミーティングや、ケアカンファレンスで話し合うことで複数の視点から総合的に把握するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について，本人，家族，必要な関係者と話し合い，それぞれの意見やアイデアを反映し，現状に即した介護計画を作成している。	定期的なモニタリングにより本人、家族と話し合いながら介護計画を見直している。また、スタッフミーティングの場でスタッフ全員がカンファレンスを行うことでなるべく多くの人の意見やアイデアを介護計画に反映させることにしている。	定期的にモニタリングを行い、日々の気づきや情報を話し合い、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果，気づきや工夫を個別記録に記入し，職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	一人一人のケア記録を作成して日々の様子など詳しく記録する様にしている。また、気付きや工夫などはカンファレンスノートに記入することで、情報を共有し実践や介護計画に活かす様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況，その時々に生まれるニーズに対応して，既存のサービスに捉われない，柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	現状では多機能性は備えていない。今後ニーズが高まれば検討したい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し，本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	徘徊のある方は本人や家族等の了解を得て地域の「SOSネットワーク」に登録するなどして地域機関と協力しながら支援している。また、地域の老人会の会合への参加、ピアノ・ハーモニカ演奏・手品など地域のボランティアにも支えられている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は，本人及び家族等の希望を大切にし，納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら，適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に本人の及び家族と話し希望を聞き、出来る限りの希望医療が受けられる様に支援している。	利用者・家族の希望により、かかりつけ医・医療機関を決めており、利用者の以前からのかかりつけ医との関係を大切にしている。通院介助は、基本的に家族が行うが、家族の都合等で困難な場合は職員が臨機応変に対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は，日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを，職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し，個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	心身の変化等があった場合、気楽に相談できる提携医療機関があり、医師、看護職にも相談しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際，安心して治療できるように，また，できるだけ早期に退院できるように，病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は，そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療となられた場合は、主治医との連帯を密にして、早期退院に向けた情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について，早い段階から本人・家族等と話し合いを行い，事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し，地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方については、主治医及び家族との話し合いを持ち、納得の行く結論を出し、職員にその方針を伝えている。	重度化した場合や終末期の在り方については、ホームで対応できる、出来るかぎりの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて，全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い，実践力を身に付けている。	研修や訓練を受けている職員もいるが、まだ受けていない職員もいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震，水害等の災害時に，昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに，地域との協力体制を築いている。	避難誘導訓練を実施する事で職員が災害時の避難方法を身に着けられるように努力すると共に、地域の協力も得られるように働きかけている。また、消火器・長梯子についても町内会に登録し非常時には、いつでも使用できるようにしている。	年2回の避難訓練を実施している。消防署の指導のもと避難方法や消火器の使い方等、全職員で把握している。	夜間想定の避難訓練を地域の方々にも呼び掛けて実施されることを期待します。
Ⅳ　その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し，誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフミーティング等を通して優しく穏やかな言葉かけや対応を職員に呼びかけている。また、ケア記録は本人や家族に読んで頂いても失礼のない表現で、他の入居者の個人情報が解らないように書くように指導している。	ミーティング等で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない接遇について話し合い、丁寧な言葉がけを心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり，自己決定できるように働きかけている。	一人一人が自己表現出来るように本人を中心としたケアプランを作成するように努力している。また、介護スタッフは介護プランに従った援助をする様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく，一人ひとりのペースを大切にし，その日をどのように過ごしたいか，希望にそって支援している。	大まかな一日の流れもあるが、なるべく一人一人の意志や希望に沿ってその日をどの様に過ごすか決めている。散歩や買物なども職員の都合で決まった時間にするのでは無く、入居者と相談しながらするようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	本人の希望に沿って、可能な範囲であれば少し遠方の行き付けの美容室などへも外出している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう，一人ひとりの好みや力を活かしながら，利用者と職員が一緒に準備や食事，片付けをしている。	献立や調理方法、味付けなどを相談しながら作っている。また、出来る時には料理の下ごしらえや配膳、下膳を手伝って頂いている。	料理の下ごしらえ（もやしのひげ取り）や準備等、出来る事をしてもらっている。庭の一角に畑を利用者と共に作り、食卓にのることも楽しみの一つ。おやつタイムには、手作りのホットケーキやフレンチトーストも作っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	食事や水分摂取量を記録して一人一人の状態を把握するようにしている。但し、同じ献立を全員に提供するのではなく、一人一人の好みや習慣希望に応じて個別に食事や飲物を提供するなどして栄養、水分の摂取を支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	一人一人の能力に応じて、声を掛けたり介助したりしている。起床後と寝る前には、適切に行っているが毎食後に必ず行っている訳ではない。食後ではないが、日中も外出やトイレの後にはウガイをして貰っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	失禁のある方も紙パンツや尿取りパッドのみで対応するようにしている。また、定時のトイレ誘導ではなく、一人一人の排泄パターンにあった援助を心掛けている。	排泄チェック表を作成し、出来るだけトイレでの排泄を心掛け自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	普段より食物繊維の多い食物を献立に入れるようにしたり、水分摂取や運動を働き掛けたりして、手助けしている。また、入居者の排便の状況を記録しており、必要によりセンナ茶提供したり服薬の補助をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	入浴日と入浴時間は概ね決められているが入浴日以外でも希望があれば出来る限り対応する。また、足浴の希望には随時対応しており専用の足浴機もある。	広い浴室で、ゆったりと入浴介助がされている。入浴は、概ね週2回、夏場は、週3回となっているが、希望があれば出来るだけ対応している。体調によっては、足浴で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて，休息したり，安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	一日中自由に居室使用するようになっており、休憩を取る事ができる。自分で移動出来ない方は、様子を伺いながら適宜に居室やソファーへ誘導するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用，用法や用量について理解しており，服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が飲んでいる薬の詳細な情報は一人一人のケアファイルの一番上に解りやすくファイルしており、職員は何時でも確認する事が出来る。また、常備している頓服薬なども用法を間違う事のないように詳細な情報を添えて保管するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割，楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように，一人ひとりの生活歴や力を活かした役割，嗜好品，楽しみごと，気分転換等の支援をしている。	花の手入れ、生け花、菜園での野菜作りメダカの飼育等、入居者が自分で役割を持てるように支援している。また、ピアノ演奏による音楽療法やカラオケ、塗り絵等の多様なリクリエーション提供している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって，戸外に出かけられるよう支援に努めている。また，普段は行けないような場所でも，本人の希望を把握し，家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一人一人その日の希望に添って散歩や買物、野外での活動が出来る様に支援している。	敷地が広いので、日常的に庭に出て外気浴をしたり、近所に散歩に出かけている。又、1年健康に過ごせるよう大頭神社に初詣に出かけたり、阿品台公園へのお花見、国営備北丘陵公園へドライブ等、外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は，本人がお金を持つことの大切さを理解しており，一人ひとりの希望や力に応じて，お金を所持したり使えるように支援している。	一人一人の能力に応じて所持する金額や保管する場所を決めるようにしている。また、買物の相談などにも応じるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり，手紙のやり取りができるように支援をしている。	本人宛の手紙などは直接渡すようにしている。必要に応じて、手紙の内容を理解することが難しい方への説明や手紙を書いたり出したりする時の援助をしている。電話は携帯電話を持ち込んで自由に使用する事が出来る。自分で電話する事が難しい場合は希望に応じて援助している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関，廊下，居間，台所，食堂，浴室，トイレ等）が，利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音，光，色，広さ，温度など）がないように配慮し，生活感や季節感を採り入れて，居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間が違和感や威圧感を感じさせず家庭的な雰囲気を有するように配慮しており、調度や設備・物品・装飾にも家庭的な雰囲気を出すよう心掛けている。また玄関周りや建物の周囲に花を植えたり、室内に花を飾るなど季節感を採り入れるように心がけている。	リビングで、皆が寛げるよう横になれるソファベッドやテーブル、椅子が配置してあり、それぞれの居場所があった。又、あちこちに生花が飾ってあり、スタッフの心遣いが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で，独りになれたり，気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	職員がリビングの座席を指定して名前を貼ったりせずに入居者が自由に思い思いの場所で過ごせるようにしている。また、リビングの片隅にソファーを置いたり、廊下や洗面所にも椅子を置いたりして気軽に一人で休憩できるように配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は，本人や家族と相談しながら，使い慣れたものや好みのものを活かして，本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	備品や持物はなるべく本人が使い慣れた物を継続して使用できるように相談している。また、居室内のレイアウトや備品の配置は安全上問題なければ本人の希望に応じて自由に出来る様にしている。	居室には、利用者が必要とするものを持ち込めるよう配慮している。馴染みの物や家族の写真・テレビ・手作りの作品等、本人が、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして，安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来るだけ安全に自立した生活が送れるように浴室やトイレを改修したり手摺や滑り止めを設置したりしている。また、一人一人の状態に応じて家具、備品の配置や室内の改良にも配慮して自分で解りやすいように配慮している。		

Ⅴ　アウトカム項目			
56	職員は，利用者の思いや願い，暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の3分の2くらいの
			③利用者の3分の1くらいの
			④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が，一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
58	利用者は，一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
59	利用者は，職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
60	利用者は，戸外への行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
		○	③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
61	利用者は，健康管理や医療面，安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
62	利用者は，その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により，安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
63	職員は，家族が困っていること，不安なこと，求めていることをよく聴いており，信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の3分の2くらいと
			③家族の3分の1くらいと
			④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
65	運営推進会議を通して，地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり，事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は，活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

（様式２）

２　目標達成計画

事業所名　グループホームあおば

作成日　　平成　26 年 6 月 10 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員に対しての研修が少ない。	年間研修計画を立てる。	ミーティング時に各項目に分けて研修を行う。	１年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注１）項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。
注２）項目数が足りない場合は，行を追加すること。